

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101532		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム アンジュ すみれユニット(1F)		
所在地	島根県松江市西津田4丁目7番18号		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.jp">https://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成26年12月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は利用者一人ひとりの良き理解者となり、その人にとってふさわしい場所、機会、雰囲気を提供し、人と人とのつながりを大切にする認知症ケアに努めています。</li> <li>・本年は①一人ひとりにあった役割や楽しみごとの支援、アクティビティの充実を図る。②日常的な外出支援、体力の維持向上等ロコモーショントレーニングの充実を図るを重要取り組み課題として、様々な活動を行っています。</li> <li>・居心地の良い居場所と思ってもらえるように相手に寄り添うサービスの提供に努めています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>開所して9年が経過しており、手探りの中での事業運営が年を重ねることで段々と安定に繋がってきているように思える。各種会議、委員会、研修、訓練等がきちんと計画され実行に移されている。理念を基に2つのグループホームのユニットごとの年間目標が作成され、職員のケアの充実に関わるように考えられているが、それぞれの取り組みが成果につながることを実感するまでには至っていないため、管理者は少しでも近づくようにモチベーションを高めている。昨年からの取り組んでいるアクティビティやロコモーショントレーニングの充実に向けて、より視野を広げ幅広い研修に取り組むことで、職員個々のレベルアップに繋がっていただきたい。地域との関わりを大切にしてきた効果も現れてきており、認知症に対する理解も深まっていることが、運営推進会議での活発な意見交換にも感じられた。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義について代表者も含めた職員全員で話し合い、日々の支援の根底に理念が活かされるようしている。	開所して丸9年が経過し当初の理念を継続してきたが、10年を節目に見直す予定にしている。年度の初めの会議で基本的なところの話をし、感じながら仕事ができるように、和紙に書いてホールの目につきやすい場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し、町内会主催の敬老会には毎年招待され参加している。今年から近隣の保育園との交流をはじめた	中学3年生の2日間の職場体験、福祉専門学校5日間の実習等、積極的に受け入れている。自治会にも加入し地域の行事への参加や今年は新たに2か所の保育所との交流も始めるなど、地域の方々との関わりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校(3校)の職場体験学習、福祉体験学習、福祉専門学校生の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者及び職員の活動状況や重要取り組みから助言を頂いている。高齢者の行方不明等の社会問題についても議題に掲げ地域と事業所の協力関係について再確認するなどしている。	利用者家族の参加は多くはないが、地域の町内会の要になるような方々の参加が多く、積極的な意見交換が行われている。事業所の利用状況、取り組みのみならず介護の社会問題等の情報提供を行うことで、参加価値を高めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、認知症ケアの事例検討発表等を行い、当事業所の取り組みを知ってもらい、意見をもらえるようにしている。介護保険課、生活福祉課共に良好な関係にあるといえる。	運営推進会議への参加をお願いし、制度等の説明などの話をしてもらったり、事例検討の発表などにアドバイスをもらったりし、良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を中心にして、定期的に勉強会を行うと共に、ユニットでの取り組み事例を発表するなどして、意識の向上を図っている。	日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでおり、身体拘束、虐待防止委員会で勉強会や事例検討を含めた研修会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会により、定期的に勉強会を行っている。何気ないケアや声かけが心理的虐待に相当していないか、注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、定期的に勉強会を行っている。必要があれば関係機関の調整を行い、支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接で説明し、また契約書等持ち帰っていただき、熟読の上契約していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いは日頃の会話や利用者自治会での意見を尊重し運営に反映させている。ご家族訪問時には積極的に利用者の様子をお知らせし、何でも言いやすい関係性になるようにしている。	利用者懇話会を2か月に1回行い食事や行事等に対する意見を聞くこととしている。家族の方の面会時にはこちらから日頃の様子を伝えることで、意見を聞き出すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、ユニット会議他夜勤者会議、管理者・主任(副主任)会議等を設け、それぞれの立場から意見、要望が出されるようにしている。また、言いにくい場合には要望書を用意している。	管理者に直接という形は少ないが、副主任、主任を通して意見が上がることが多い。その他各会議の席でも問いかけたり、言いにくいことがなく話し易い関係を作るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員会議に毎回出席し、経営状況等について報告し職員の要望や意見を取り入れ、職員処遇へ活かすようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は毎月の職員会議に参加し、事例検討発表や研修会での参加報告等を聞き、個々人及び全体の認知症ケアのレベルを把握している。資格取得に向けた支援についても随時説明している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の研修に参加し、情報交換等行っている。また、法人内のグループホームにおいて相互に研修参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面談において本人の意向や思いを十分に伺い、ご家族や関係諸機関からの情報も充分吟味して、職員全員が情報を共有し安心して生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家庭での面談やホーム見学時に家族が抱えている問題や不安に思っていることを察し安心できるようにお答えしている。入居後も遠慮なく意見が言えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームを含めグループホームでできること出来ない事を十分に説明し、その上で本人にふさわしい居場所となるかどうか家族と相談している。希望があればお試し入所もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のあらゆる場面で、自分で行えることは自分です。その気持ちがいつまでも続くよう声かけ、働きかけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、状況報告所やユニット便りを送付し近況報告を行っている。家族の訪問時には直近の様子を細かい所までお知らせするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年同窓会に参加される利用者も居られ、出来る限り馴染みの人との関係が続くよう配慮している。	近隣で定期的に面会に来るのは決まった方が多いが、馴染みの美容院等の利用が続くように支援している。誕生日には希望を聞いて、外出の機会を持ち夕食や買い物など楽しめるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者懇話会(すみれ会)を2カ月に1回開催し気軽に言いたい事をいえる環境づくりをしている。また、認知症の行動・心理症状に対し、病気や障がいの理解をそれとなく求めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の事業所に対しては、それまでの経過や事業所で行ってきたサービス内容を詳しくお知らせし、本人の戸惑いがないように努めている。退所後も必要があれば情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の日常生活場面での何気ない言葉から今の気持ちを推量したり、利用者同士での会話から不満や希望がないか本人の気持ちを汲み取るようにしている。家族からも真意を確かめたり、情報を得たりしている。	センター方式(似顔絵入り)のアセスメント表を利用者に聞きながら一緒に作成するようにしている。重度化で訴えの少ない利用者の場合は、サービス開始時や面会時に家族から聞き出すことで把握に努めている。	個々の残存能力を生かしながら、幅広い活動に繋げることを検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートを家族と共に作成し、20代、30代・・・それぞれの世代での生活の様子を把握し現在の支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いろいろな誘いかけを行い、興味を示される事には継続して出来るよう支援している。本人の一日の感情の変化や進んで活動されることは何があるか、観察、記録しスタッフの共有するところとしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や思いを聞き入れ、自立支援に即した介護計画になるようにしている。状態変化が生じた場合は、家族の意見も取り入れながらカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。	出来るだけ現状に合った計画になるように、定期的にモニタリングの機会を持ち、変更が必要な時には見直しに繋げている。観察重視で担当中心に意見を出し合うこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や身体状況の変化、外出、受診等々は個別ファイルに記入し、全員で確認把握している。その他に週間予定連絡表等を活用し情報共有に努め、新たな必要性が生じれば見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な本人や家族のニーズに対しても柔軟に対応し、要望に答えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域包括支援センター職員や町内会長、民生委員等から周辺情報や助言をいただき活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医、病院を受診できるようにしている。協力医は月2回の往診の他、夜間緊急時にも対応され職員との意思疎通も充分に出来ている。通院援助する際も家族の理解を受けている。	かかりつけ医を継続しながらも、協力医の月2回の往診があり、夜間や緊急時にも対応が可能になっており、利用者家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと様子が違うといった些細なことを見逃さないように努め、看護師との情報交換を密にし、早期発見、早期治療を心がけ、適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的にお見舞いに伺い、担当看護師から日中の様子、睡眠や精神的な変化がないか確認し、退院時には担当医師から十分な説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化(終末期)の指針を説明し、事業所でできること、できないことを良く理解してもらった上で、かかりつけ医、家族、職員が一体となり終末期ケアに取り組んでいる。これまで二人の方のターミナルケアを行い、家族にも深く感謝された。	医療行為が多く必要な場合は難しいが、協力医の理解も得られ、利用者家族が希望される場合は、話し合いの機会を持ちながら、看取り、終末期のケアに取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに従い職員は各自の役割が適切に行えるよう、勉強、訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難・通報・消火訓練を毎月行っている。また、幅広い防災知識を得るための防災教育も定期的に行い、地域の防災隊及び周辺企業との間に救援に関する協力体制の取り決めも出来ている。	街中のため自然災害を受けることは比較的少ないことが予想できるが、火災、地震等に対応するため幅広い訓練を計画実行している。昼間に於いては近隣の数社に加え、町内の自営消防隊の協力を得るよう協定を結んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と職員は親しい関係になっても常に人生の先輩として敬意を払い、個人の尊厳を傷つけることのないよう、トイレへの誘いかけ、入浴時の支援等プライバシー、自尊心を傷つけることのないように配慮している。	年度当初に倫理規定、法令順守、個人情報についての研修を行い、排泄や入浴介助等のケアの場面では、プライバシーを損なわないよう繰り返し取り上げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの身体・心理状態を考慮し、画一的なケアにならないよう、本人の思いや習慣を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるがそれに拘ることなく一人ひとりの要望や希望を尊重し、少しでも楽しい一日が送られるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の生活習慣や好みのスタイルに合わせた支援をしている。介助を要する方へは、その人らしい身だしなみができるよう見守り、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関して関わりを持ちたい利用者には盛り付け、配膳、テーブル拭き等一連の作業に参加していただけるよう誘いかけしている。利用者の好みメニューに反映されるよう、利用者自治会等で幅広く意見を聞いている。	朝食、昼食は事業所で作るが夜食は業者を利用。なるべく食事に関わるように、テーブル拭きや盛り付け等できることを手伝ってもらっている。行事でおやつ作りをしたり、楽しみがもてるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態を把握し過不足にならないよう栄養バランスに気をつけている。水分摂取が不足気味の方にはジュース等好きなものを提供するようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、見守りや声かけ、或いは介助を行っている。日々の支援の中で一人ひとりの口腔内の状態を把握し、必要があれば訪問歯科診療を受け、その指導に従っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自然な排泄が継続するよう配慮している。身体状況に応じてポータブルトイレを設置したり、オムツ、パット類は多種用意し本人の排泄状況に応じて適切な物を使用し、排泄パターンの把握に努め適切なトイレ介助ができるようにしている	個々の能力を考え安易におむつ利用にならないよう心掛けている。紙パンツやパットの適切な使い方でおむつ代が増えないような配慮も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、ヨーグルトや牛乳等を提供するなど、一人ひとりに適した方法で提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望尊重しながら入浴して頂いている。同姓介助に努め、季節ごとに菖蒲湯、ゆず湯等小さい風呂ではあるが雰囲気味わってもらっている。	最低週2回を確保する形で声掛けしている。午前午後どちらも可能だが、概ね決まってきた。家庭の一般的な浴槽に同姓介助で1対1を基本としている。少しでも楽しめるように季節に合わせた工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間等設けず、自分のペースで心地よい睡眠が取れるよう見守っている。不眠傾向の方にも無理に眠るよう促さず、日中の活動や夜間入眠の妨げになっているものはないか等配慮し、中・長期的に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケア記録に薬剤情報をファイルしおりに触れ効能や副作用を確認するようにしている。与薬時には声かけ確認し、完全に飲み込まれるのを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サービス提供委員会を作り、年間を通して利用者の体力向上、余暇活動の充実に取り組み、その実践経過・課題を定期的に発表し、メリハリのある生活が送られる支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者懇話会や日常会話でのやりとりから、訪ねて見たいところの希望を聞き、誕生日外出、グループ外出を行っている。近所の神社など日常的な散歩も行っている。	季節に応じていろいろな花見等の外出を計画している。日常的には、車いすで近隣を散歩したりして気分転換の機会としたり、ちょっとした外出の機会をできるだけ増やすよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望されれば自分で管理していただき適宜使用している。事業所での管理を希望されれば小遣帳で管理し、報告している。本人の希望があれば一緒に買い物に行くなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話等自由に使用できる環境にある。手紙や年賀状等要望があれば一緒に書いたり、代筆したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和モダンの設計で落ち着いた雰囲気であると思う。利用者の作った作品を額にいれ掲示している。季節の花等利用者にも手伝ってもらい随時活かしている。	住宅地の中で建物が密集した場所だが、周辺に通勤する若い働き手が多く、日中も夜間も比較的静かである。全体的に木の落ち着いた配色の建物で、あちこちに和を感じることでできる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はリビングと和室しかないが、利用者の性格や、日頃の関係性を考慮して、楽しく過ごせる配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ち込まれたりして自由に使ってもらっている。タンス等の配置は本人と相談しながら決め、動きやすさや安全性にも配慮している。	使い慣れた物の持ち込みを進めて居心地良くなるようにしたり、ベッドやポータブルの配置で動線が良くなるように利用者と一緒に考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの行動の様子を観察し、目印が必要な場所にはふさわしい物を設置し、廊下には歩行の妨げとなるものは置かず、安心して移動できる空間や環境を提供している。		